上愛子地区　大規模雨水処理施設整備事業計画

（様式１）

項　　目	内　容　・　施　策　等
選定理由	本地区は、JR愛子駅を中心に、仙台市青葉区宮城総合支所や仙台市立愛子小学校、宮城社会福祉センターなどの公共・公益施設を有する都市機能が集積した地区である。また、地区の近隣においては、複数の区画整理事業が予定されており、今後のさらなる発展も見込まれる。 地区内の雨水管きょの能力が不足しているため、令和元年や平成27年の大雨など、過去10年間で3回の浸水実績があり、市民生活に甚大な影響を及ぼしていることから、速やかな浸水被害軽減対策が求められている。 なお、当地区は内水浸水シミュレーションにより、約5.5haの浸水が想定されている 備考）下水道浸水被害軽減型①（エ）　※下水道浸水被害軽減総合事業
整備目標	①　本計画における対象降雨 ・本計画における対象降雨：63 ㎜/hr ・目的とする理由：2019 年 10 月（令和元年）に発生した東日本台風の降雨であり、仙台市内水浸水想定区域図で位置付けている降雨 ・ハード整備による整備水準の目標：52 ㎜/hr（10 年確率降雨） ②　目標設定 ⅰ)都市機能の確保の観点：交通機能を阻害してしまう道路冠水を防止するため、機能保全水深を20㎝とする。 ⅱ)個人財産の保護の観点：家屋の床上浸水を防止するため、機能保全水深を45㎝とする。 ③ ハード対策，ソフト対策及び自助の役割分担について ⅰ)ハード対策 施設整備により 10 年確率降雨（52.2mm/h）において、浸水被害を概ね解消することを目的とする。 ⅱ)ソフト対策及び自助 施設設備で対象とする降雨量を上回る本計画における対象降雨 63mm/h において、下水道管理者による内水浸水想定区域図の作成・公表などの情報提供、地域住民等による止水板設置など、それぞれの主体が対策を実施することにより、被害をできるだけ小さくする。

項　　目	内　容　・　施　策　等			
内水ハザードマップ策定状況	・　有 （・　策定予定）（令和９年３月策定予定）			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・雨水管渠の整備　排除面積 33.79ha φ1000~φ1,650、□600×600～□2,000×2,500 L=3.0km 分水人孔　1 箇所
			下水道管理者以外	・該当なし
		ソフト対策	下水道管理者	・内水浸水想定区域図の作成・公表 ・浸水履歴マップの作成・公表
			下水道管理者以外	・水災予測情報の提供 ・内水ハザードマップの作成・公表
	自助	ハード対策		・各戸貯留浸透施設の推進 （仙台市雨水流出抑制補助金制度） ・土のうの無料配布 ・止水板等設置の推進 （止水板等設置工事費補助制度）
		ソフト対策		・雨水ます、側溝等の清掃

備考）事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述
また，下水道管理者以外が行う施策については，道路管理者など実施主体，制度要綱等を具体的に記述
＊下水道浸水被害軽減総合事業に該当する場合、既存の施設調書を別途添付すること

年度計画（百万円）

名　　称	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度	計
雨水管渠	60	695	168	1,147	1,147	3217
計	60	695	168	1,147	1,147	3217

備考）事業内容に位置づけた施設について年割額（事業費）を記述。
整備済のものは含めない。

項　　目	内　容　・　施　策　等
整備効果	＜事業評価の内容＞ Ｂ／Ｃ：2.3　（総便益：77 億円、総費用：33 億円） 経済的内部収益率　11.1％ ＜その他の定量的な効果＞ 都市浸水対策達成率：37.3％→37.5％
放流先河川との調整状況	放流先の斉勝川は、洪水到達時間内降雨強度が 71.4mm/hr（平成 21 年度広瀬川（県管理区間）水理調書）と設定されている。 今回の下水道浸水被害軽減総合計画の目標（ハード整備の目標）は、52.2mm/時間（10 年確率）を採用していることから、放流先河川の計画範囲内となるため調整は図られている。
その他	地区の近隣で予定されている区画整理事業との協議・調整についても順次を図っている。